

2021 年 9 月

# 食料安全保障月報 (第 3 号)



令和 3 年 9 月 30 日

農林水産省

# 食料安全保障月報について

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

## 2021 年 9 月食料安全保障月報（第 3 号）

### 目 次

#### 概要編

|     |                                  |   |
|-----|----------------------------------|---|
| I   | 2021 年 9 月の主な動き                  | 1 |
| II  | 2021 年 9 月の穀物等の国際価格の動向           | 3 |
| III | 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント         | 3 |
| IV  | 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント       | 3 |
| V   | 今月の注目情報 明暗を分けた豪州とカナダの穀物等の生産・輸出動向 | 4 |

#### （資料）

|   |                        |    |
|---|------------------------|----|
| 1 | 穀物等の国際価格の動向            | 8  |
| 2 | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移    | 9  |
| 3 | 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別） | 10 |
| 4 | FAO 食料価格指数の推移          | 12 |
| 5 | 食品小売価格の動向              | 13 |

#### 品目別需給編

|   |          |                                      |
|---|----------|--------------------------------------|
| I | 穀物       |                                      |
| 1 | 小麦       | 1                                    |
|   | ＜米国＞     | 2021/22 年度の収穫はほぼ終了、2022/23 年度の作付けが開始 |
|   | ＜カナダ＞    | 平原三州の干ばつ天候で生産量は減産見通し                 |
|   | ＜豪州＞     | 生産量は史上第 3 位の豊作                       |
|   | ＜EU＞     | フランスで収穫はほぼ終了。普通小麦の品質は良好              |
|   | ＜中国＞     | 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し                   |
|   | ＜ロシア＞    | 生産量は前年度を 15.1% 下回る 72.5 百万トン         |
| 2 | とうもろこし   | 8                                    |
|   | ＜米国＞     | 収穫面積・単収上方修正で増産、輸出減の見通し               |
|   | ＜ブラジル＞   | 2020/21 年度冬とうもろこし生産見通し下方修正           |
|   | ＜アルゼンチン＞ | 増産見通しも輸出税継続                          |
|   | ＜中国＞     | 収穫面積増、単収上方修正で史上最高、消費量も史上最高の見通し       |
| 3 | コメ       | 13                                   |
|   | ＜米国＞     | 単収増加するも収穫面積の減少により生産量が減少              |
|   | ＜インド＞    | 2019/20 年度以降の期末在庫を上方修正               |
|   | ＜中国＞     | 前月予測から変更なくも生産量・消費量ともに史上最高            |
|   | ＜タイ＞     | 2020/21 年度の輸出量が下方修正                  |
|   | ＜ベトナム＞   | 秋作コメの収穫がほぼ終了                         |

|                              |    |
|------------------------------|----|
| Ⅱ 油糧種子                       |    |
| 大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | 19 |
| ＜米国＞ 収穫面積増、単収上方修正で増産、輸出減の見通し |    |
| ＜ブラジル＞ 収穫面積増で史上最高の見通し        |    |
| ＜アルゼンチン＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続   |    |
| ＜中国＞ 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン   |    |
| ＜カナダ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産の見通し     |    |

## 特別編

我が国の農産物輸入における海運事情（外航編）

### 【利用上の注意】

表紙写真：米国ポートランド港 第5ターミナル穀物エレベーター

出典：“Port of Portland” ホームページ

(<https://www.portofportland.com/Terminal5>)

※ ポートランド空港・港湾局の厚意により転載。

(photo courtesy of Port of Portland)

(概要編)

## I 2021 年 9 月の主な動き

### 主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定しつつあるが、これから収穫・作付けが行われる南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、小麦については、9 月の米国農務省 (USDA) の需給報告では、生産量は史上最高となるものの、飼料用需要の高まりで消費量が生産量を上回る予想。米国、カナダでの干ばつによる高たんぱく質小麦の減産見通し等から、国際相場も高い水準で推移しており今後も注視が必要。

一方、大豆・とうもろこしについては、生産量が消費量を上回ると予想され、相場も史上最高水準にまで迫った 5 月頃と比較すれば一段落した感があるものの、期末在庫は依然としてタイトな状況であり、南半球の状況を中心に引き続き注視していく必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、本年 5 月まで 12 カ月連続で上昇して以降、2 カ月連続で下落していたが、最新値 (8 月) では 3 カ月ぶりに上昇。

また、海上運賃も引き続き高い水準で推移。

### 早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、9 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について (農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



## 1 収穫期を迎える米国の状況

とうもろこし、大豆は、高温・乾燥の影響があったコーンベルト北西部を除き、おおむね順調に収穫期を迎えた。9月の米国農務省（USDA）の需給報告では、8月時点の見通しから単収がとうもろこし、大豆とも引き上げられたため、生産量は、それぞれ630万トン、100万トン上方修正され、それぞれ3億8,090万トン、1億1,900トンとなった。ともに前年度より増産となる見通し。期末在庫率はとうもろこしは9.5%、大豆は4.2%と前月より上方修正も、2年連続で一桁台となっている。

小麦は、冬小麦が前年度より増産となるも、春小麦が6月から7月にかけて主産地の米国北西部で生育期の高温・乾燥の影響を受け減産となったことから、小麦全体で4,620万トン（前年度比7.1%減）の見通しとなっている。期末在庫率は、前年度の40.0%から29.8%へ低下する見込み。

なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受け、一時停電となったため、輸出が遅延している。

写真：ネブラスカ州のとうもろこし収穫  
（9月16日撮影）

乾燥の影響で例年より生育が早かった



## 2 南米の作付状況

アルゼンチンでは、9月上旬に降雨があり、2021/22年度の生育中の小麦への乾燥の影響を緩和し、9月中旬には、とうもろこしの作付けが開始された。USDAの9月見通しによれば、小麦の生産量は2,000万トン（対前年度比13.3%増）、とうもろこしの生産量は5,300万トン（対前年度比6.0%増）と見込まれている。なお、降雨不足により低下していたパラナ川の水位は8月よりは上昇したものの、引き続き穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

ブラジル南部で、9月中旬には降雨があり、2021/22年度の大豆の作付けが開始された。ブラジル食料供給公社の8月26日時点の見通しによれば、大豆の生産量は、史上最高を更新する1億4,130万トンとなり、世界最大の生産・輸出国の地位を維持すると見込まれている。一方、前年度が干ばつや霜害で冬作が影響を受け減産となったとうもろこしは、1億1,590万トンと大きく回復する見込みである。

## 3 ウクライナの収穫状況と輸出動向

USDAの9月見通しによれば、小麦は、春の降雨に恵まれ、作付けの大半を占める冬小麦は収穫が終了し、生産量は前年度（2,540万トン）より29.8%増の3,300万トンが見込まれている。とうもろこしは、天候に恵まれ、現在、成熟期を迎えており、干ばつ被害を受けた前年度（3,030万トン）より28.7%増の史上最高の3,900トンが見込まれている。

一方、輸出量は、増産により小麦は2,350万トン、とうもろこしは3,200万トンと前年度より増加する見込み。なお、輸出規制に関しては、政府と穀物業界団体が7月に輸出上限数量の設定について合意しており、具体的な数量は8月にも公表されるとみられていたが、豊作見通しを受け公表が延期されている模様。

## Ⅱ 2021 年 9 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、8月末、250ドル/トン台後半で推移。9月に入り、ロシアやカナダでの減産による世界的な供給懸念から一時260ドル/トン台前半に値を上げたものの、ドル高やUSDAの9月需給報告で、世界の期末在庫量が上方修正されたことから、240ドル/トン台後半に値を下げた。その後は、フランスの生産量が減少見込みとなったことや、ロシアの冬小麦の作付けが減少する見通しから、値を上げ、9月下旬現在、250ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、8月末、210ドル/トン台前半で推移。9月に入り、ドル高や8月末のハリケーン・アイダによる米国ガルフ地域の穀物輸出施設の損傷や停電の影響で輸出が停滞する懸念、USDAの9月需給報告で米国や中国の生産量が上方修正されたこと、米国が収穫期を迎えたこと等により値を下げ、9月下旬現在、200ドル/トン台半ばで推移。

コメは、8月末、420ドル/トン台半ばで推移。バーツ安やコンテナ不足による船積み遅延、労働力の不足等によりアフリカやアジアからの引き合いが弱いことから値を下げ、9月下旬現在、400ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、8月末、470ドル/トン台後半で推移。9月に入り、ドル高や8月末のハリケーン・アイダによる米国ガルフ地域の穀物輸出施設の損傷や停電の影響で輸出が停滞する懸念、USDAの9月需給報告で米国の生産量が上方修正されたこと、米国中西部の降雨による作柄改善見込み、米国が収穫期を迎えたこと等により値を下げ、9月下旬現在、460ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

## Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から1,640万トン上方修正され 27.9億トン。消費量は、前月から550万トン上方修正され 27.9億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り28.3%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、5.0億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9億トンと前月予測から上方修正、期末在庫率は前月から上方修正された。。

(注：数値は9月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3億トン。消費量は前年度を上回り 6.2億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、17.8%となる見込み。

(注：数値は9月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」による)